

日本のポンペイ

～ 渋川市の遺跡を探る ～

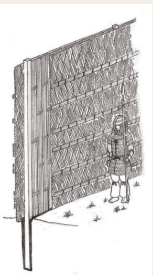
No.18

『金井下新田遺跡(1)金井型網代垣の発見』

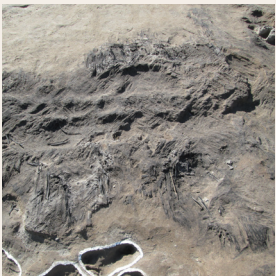
上信自動車道金井バイパス建設で調査された金井下新田遺跡で、6世紀初頭の榛名山の噴火に伴う火砕流堆積物に埋もれて、大規模な網代垣あじろがきが発見されました。この網代垣は、一辺が50メートルほどの方形となる「囲い状遺構」の囲いで、高さは3メートルほどでもあったことが分かりました。炭化した部分を観察すると、この網代垣は、篠のような材料で作ったヨシズ状のパネルを、アシのような植物の茎で編んだ網代パネル2枚で挟んだ3層構造で、厚さは20センチほどであったと思われる。このパネルが、方形区画に沿って1・8メートル間隔で立てられた100本以上の柱によって支えられていました。

網代垣の下端は、区画に沿って掘られた溝に埋め込まれ、3メートルの高さと相まって、外からは内部がのぞき込めないようになっていたようです。網代垣の大半の部分は、3回目の噴火に伴う火砕流の衝撃で倒壊したと考えられますが、噴火前に倒れていた場所もみられることから、一部で解体が進められていた可能性があります。

古墳時代に網代垣があったことは、これまでも知られていましたが、高さが3メートルほどもある3層構造の垣が確認されたのは初めてで、「金井型網代垣」と呼ぶにふさわしい貴重な発見です。



復元予想図



炭化した網代垣